

【 九重町 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語A

- 教科の正答率で見ると、国語「A：主として知識」が全国と比較して、+1.3ポイントであった。
 - 学習指導要領の領域等の正答率では、すべての領域で全国を上回った。
 - 正答数度数分布では7問正解の割合が高い。
 - 無回答率については、全国と比較して-2.3ポイントであった。
- *全国と比較して、ほぼ全国と同じレベルである。

小学校：国語B

- 教科の正答率で見ると、国語「B：主として活用」は-3.7ポイントとなった。
 - 学習指導要領の領域等の正答率では、「書くこと」-4.2ポイント、「読むこと」-1.3ポイントとなった。
 - 正答数度数分布では4問正解の割合が多い。
 - 無回答率については、全国と比較して-2.7ポイントであった。
- *全国と比較して、特に「書くこと」の領域に課題がある。

2 具体的な改善方策

小学校：国語A

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 主語と述語を適切に照応させて、文を正しく書くようにする。
 - 文や文章の中で、漢字を正しく使うようにする。

小学校：国語B

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 文章の種類や特徴を踏まえて、文章全体の構成やその効果を考えて書くようにする。
 - 理由を明確に伝えるために、事例をあげて具体的に詳しく書くようにする。
 - 比較して書くことの効果を実感することができるようにする。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数A

- 教科の正答率で見ると、算数「A：主として知識」については、+0.5ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「図形」-3.6ポイント、「数量関係」-2.1ポイントであった。
- 正答数度数分布では4問の割合が多いが、上位層も多い。
- 無回答率については、全国と比較して-1.0ポイントであった。
- *全国と比較して、「図形」、「数量関係」の領域に課題がある。

小学校：算数B

- 教科の正答率で見ると、算数「B：主として活用」は-3.5ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「数と計算」-3.4ポイント、「量と測定」-6.0ポイント、「図形」-0.6ポイント、「数量関係」-7.1ポイントであった。
- 正答数度数分布では2問、3問、5問、6問の割合が多い。
- 無回答率については、全国と比較して-3.3ポイントであった。
- *全国と比較して、すべての領域で課題があるが、特に「量と測定」、「図形」に課題がある。

2 具体的な改善方策

小学校：算数A

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 数量の関係を的確に捉え、除数が1より小さい小数である場合でも除法が用いられることが理解できるようにする。
 - 分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを測定することができるようにする。
 - 空間の中にあるものの位置を、3つの要素を用いて正しく表すことができるようにする。
 - 円周率が、円周の直径に対する割合であることを理解できるようにする。
 - 百分率の意味を理解し、確実に求められるようにする。
 - 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができるようにする。

小学校：算数B

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 数量の關係に着目して、筋道を立てて考え、数理的に処理することができるようにする。
 - 日常生活の問題を解決するために、情報を収集し、それらを表に整理して、条件に合う事柄について適切に判断することができるようにする。
 - グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにする。
 - 目的に応じてグラフを作り、複数のグラフを関連付けて考察することができるようにする。
 - 数量の關係について考察したことを、式に用いて表現することができるようにする。
 - 日常生活の問題の解決のために、複数の情報を関連付けて理論的に考察し、判断の理由を説明することができるようにする。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

1 調査結果の分析

小学校：理科総合

- 教科の正答率で見ると、理科「総合」は -0.3 ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「エネルギー」 -5.3 ポイント、「生命」 -0.7 ポイントであった。
- 正答度数分布では7問、8問の割合が多い。
- 無回答率については、全国と比較して -0.7 ポイントであった。
- *全国と比較して、「エネルギー」の領域に課題がある。

2 具体的な改善方策

小学校：理科A

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 安全に留意し、生物を愛護する態度を持って観察方法が構想できるようにする。
 - 問題に対応した視点で分析できるようにする。
 - 予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しをもって実験を構想できるようにする。
 - 複数の情報を関連付けながら、多面的に分析して考察できるようにする。
 - 学んだことを基にしたものづくりへの適用ができるようにする。
 - 実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想できるようにする。
 - 実験結果を基にして、より妥当な考えに改善できるようにする。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語A

- 教科の正答率で見ると、国語「A：主として知識」が全国と比較して、+1.9ポイントであった。
 - 学習指導要領の領域等の正答率では、「書くこと」-5.4ポイント
 - 正答数度数分布では上位層の割合が多い。
 - 無回答率については、全国と比較して-1.4ポイントであった。
- *全国と比較してほぼ同じレベルであるが、「書くこと」の領域に課題がある。

中学校：国語B

- 教科の正答率で見ると、国語「B：主として活用」は+3.7ポイントとなった。
 - 学習指導要領の領域等の正答率では、すべての領域で全国を上回った。
 - 正答数度数分布では5問、6問の割合が多い。
 - 無回答率については、全国と比較して-3.0ポイントであった。（無回答者は0人。）
- *全国と比較して、やや高い。

2 具体的な改善方策

中学校：国語A

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 文章を書く際には、目的や意図に応じて書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成するように指導する。
 - 事象や事柄、意見を効果的に相手に伝えるためには、目的や意図に応じて説明や具体例を書き加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写を工夫したりするよう指導する。
 - 自分の考えが読み手に分かりやすく伝えるようにするために、読み手の立場に立って書いた文章を読み返し、伝えたい事柄等が十分に書き表されているかどうか検討するように指導する。
 - 語感を磨き語彙を豊かにするために、語句に意味を辞書や資料集などを用いて確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用するよう指導する。
 - 文を書く際には、文の成分を順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができている常に吟味するように指導する。

中学校：国語B

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- グラフや図表、写真やイラストなどが用いられている文章を読むときには、文章の構成や展開を適切に把握し、それぞれの図表などがどの文章のどの部分と関連しているかを捉えるように指導する。
 - 目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などに分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導する。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学A

- 教科の正答率で見ると、算数「A：主として知識」については、+2.9ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「資料の活用」-2.3ポイントであった。
- 正答数度数分布では、下位層の割合が少ない。
- 無回答率については、全国と比較して-2.4ポイントであった。
- *全国と比較してやや高いが、「資料の活用」の領域に課題がある。

中学校：数学B

- 教科の正答率で見ると、算数「B：主として活用」は-1.9ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「数と式」-4.1ポイント、「図形」-2.1ポイント、「資料の活用」-1.5ポイントであった。
- 正答数度数分布では4問、7問が多いの割合が多い。
- 無回答率については、全国と比較して-3.3ポイントであった。
- *全国と比較して低い。特に「数と式」、「図形」、「資料の活用」に課題がある。

2 具体的な改善方策

中学校：数学A

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 目的に応じて等式を変形することができるようにする。
 - 線対称や点対称の観点から図形を考察できるようにする。
 - 辺や角に着目し、三角形の合同条件を理解できるようにする。
 - 帰納と演繹の違いを理解し、証明の必要性和意味について理解が深められるようにする。
 - グラフを用いて変域を視覚的に捉え、変域を求めることができるようにする。
 - 一次関数の式とグラフの特徴を関連させて理解できるようにする。
 - 連立二元一次方程式の解は2直線の交点の座標として求められることを理解できるようにする。
 - 確率の意味について、実験を通して実感を伴って理解できるようにする。

中学校：数学B

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるようにする。
 - 事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるようにする。
 - 問題解決の過程に振り返って考え、成り立つ事柄を数学的に表現することができるようにする。
 - 数学的に表現された結果を事象に則して解釈することができるようにする。
 - 問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるようにする。
 - 問題の条件を変えて、発展的に考えることができるようにする。
 - 付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする。
 - 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるようにする。
 - 数学的な結果を事象に則して解釈できるようにする。
 - 事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて説明できるようにする。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

1 調査結果の分析

中学校：理科総合

- 教科の正答率で見ると、理科「総合」は-1.1ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「物理的領域」-2.8ポイント、「化学的領域」-0.5ポイント、「地学的領域」-0.2ポイントであった。
- 正答度数分布では11問、12問が多いの割合が多い。
- 無回答率については、全国と比較して-2.4ポイントであった。
- *全国と比較して、やや低いと特に「物理的領域」に課題がある。

2 具体的な改善方策

中学校：理科総合

- 次のような視点を持って指導を行っていく。
- 観察・実験から得られた情報と習得した知識・技能とを活用して、考察を検討して改善できるようにする。
 - 無脊椎動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できるようにする。
 - 日本の天気の特徴を日本周辺の気団と関連付けて捉えることができるようにする。
 - 条件を制御してシミュレーションを行い、考察を検討して改善できるようにする。
 - 実験の目的に応じた条件を指摘し、条件制御の知識・技能を活用できるようにする。
 - 先哲の考えを手掛かりに、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。
 - 化学変化に関する知識・技能を活用して、化学変化を表したモデルを検討して改善できるようにする。
 - 神経系の働きについて知識を身に付ける。
 - 自然の事物・現象と実験の装置や操作を対応させたモデル実験を計画できるようにする。
 - オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができるようにする。
 - 地震に関する知識を身に付け、防災や減災に生かすことができるようにする。
 - 原子の記号の表し方についての知識を身に付ける。

平成30年度 九重町における取組の重点

☆学習環境の見直しと低学力層の児童生徒への支援の充実

- いじめ・不登校対策の徹底と人権教育の充実
- 個別の指導計画、学習状況個人カルテの作成と活用

☆活用力の向上

- 学校図書館を活用した授業実践と読書の取組の充実
- B 問題を意識した授業（協調学習を含む）の実施

☆授業改善の取組

- 新大分スタンダードの徹底
- 大分県学力定着状況調査の誤答分析と授業改善の推進
- 漢字の読み書きや英単語の語彙など基本的な知識の定着
- ペア・グループ活動の充実（適切な課題設定）

【 九 重 町 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

○小学校においては、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。

- ・学校のきまりを守っていますか
- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ・5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか
- ・地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか
- ・算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか
- ・理科の勉強は好きですか
- ・理科の勉強は大切だと思いますか
- ・理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか
- ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

○小学校においては、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。

- ・自分には、よいところがあると思いますか
- ・家で、学校の授業の予習・復習をしていますか
- ・算数の勉強は好きですか
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

○中学校においては次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- ・学校の規則を守っていますか
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ・家で、学校の宿題をしていますか
- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか
- ・1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり, 地域の人と関わったりする機会があったと思いますか
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか (携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)
- ・数学の勉強は好きですか
- ・数学の授業の内容はよく分かりますか

○中学校においては次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。

- ・将来の夢や目標を持っていますか
- ・家で、学校の授業の予習・復習をしていますか
- ・新聞を読んでいますか
- ・理科の勉強は好きですか
- ・理科の勉強は大切だと思いますか
- ・理科の授業の内容はよく分かりますか
- ・学校の授業時間以外に、普段 (月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

<成果>

- 規範意識が高い。
- 学習習慣が身につけている児童生徒の割合が高い。
- 「総合的な学習の時間」を始めとした課題解決学習が進められている。
- 授業の中でグループやペアでの話し合い活動が仕組まれている。
- 地域との関わりが大きく、地域について学習したり、イベントに参加したりしている割合が高い。

<課題>

- 肯定的な回答が低い教科は、学力にも課題がある。よって教科にたいする意欲化や学ぶ目的を明確にする取組が必要である。そのためには、教科指導において日常生活を結び付けることも大切である。
- 小中ともに予習・復習に取り組ませる指導が必要である。

以上のことから、新大分スタンダード、小中7年間を見通した総合的な学習の時間を活用した「このえ学」、ペア・グループ活動を取り入れた授業（協調学習も含む）の取組が、学校全体で組織的に推進されていると推察できる。しかし、学校ごとに見ていくと取組に大きな差があることも明らかになった。

以上のことをふまえ、今後は授業やペア・グループ活動における課題の設定についての研究、地域教材の掘り起こしと地域人材の有効的な活用、家庭学習になどについて小中が連携した取組をよりいっそう推進していくことが必要である。

【 九 重 町 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小中学校：学校質問紙

○肯定的な回答

- ・学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。
- ・算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導の実施。
- ・全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用。

○一部課題が見られる回答

- ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導。
- ・各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会の設定。
- ・全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有。
- ・算数の授業において、習熟度に応じた少人数指導。
- ・算数の指導を実生活における事象との関連を図った授業に実施。
- ・博物館や科学館、図書館を利用した授業の実施。
- ・教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動の実施。
- ・地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを活用した保護者や地域の人との協働による活動の実施。
- ・家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えること。（国語／算数共通）
- ・理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えること。
- ・個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか。
- ・言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいるか。

2 九重町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 1 教育条件整備
- 2 小中連携とコミュニティ・スクールの推進
- 3 研修機会の保障と研究会等の情報提供
- 4 ここのえ学園基本計画に基づいた小中連携・地域保護者との連携の推進